

**重点課題**

**【課題1】** 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。  
 (A 設問5) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (正答率14.3%)  
 主語と述語のつながりが合っている文をつながりが合っていない文として選んだ児童が、42.9%

**【課題2】** 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く。  
 (B 設問2二) 書くこと (正答率0%)  
 「おすすめする文章」にふさわしい言葉を用いて書いているが、必要な内容を取り上げて書いていない児童が42.9%

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

**【課題1】**

- 「主語と述語」や「修飾と被修飾」との関係をしっかりと教え、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのよ  
うに」「なぜ」などという文の構成について理解させる。
- 文を読み取る力を養うために、読書活動の推進に取り組む。

**【課題2】**

- 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くために、優れた表現を模範にして書く練習をさせる。名文  
を視写したり、作文や日記を書いたりする活動を継続的に行う。

※小中一貫した取組は、読書活動を充実させ、読み取る際に、主語を明確にさせ、内容を適切に読み取らせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年生 復習テスト (主語と述語)					5年生 (主語述語) H30「全国学力」	3, 4, 5年生 学年末テスト
目標値	70%					70%	80%
実施後数値	89.5%					62.5%	86%

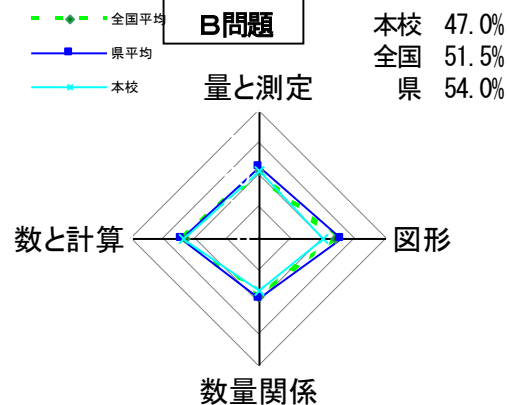
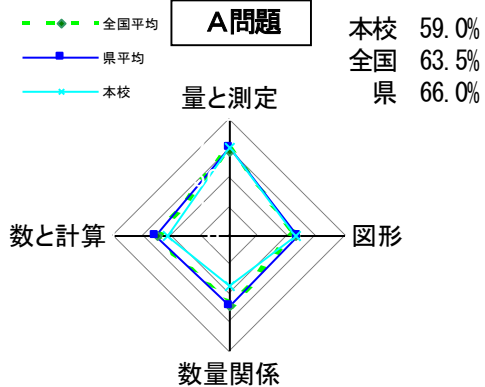
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					5年生 復習テスト	5年生 (書くこと) H30「全国学力」	5年生 学年末テスト
目標値					70%	70%	80%
実施後数値					80%	75%	95%

**来年度に向けて**

「主語と述語」「修飾と被修飾」との関係やローマ字・漢字など基礎的な内容を繰り返し指導する。根拠をもって言葉で表現できるようにするため、意識して場の設定を行う。

別紙3

全国学力・学習状況調査 本年度正答率



重点課題

- 【課題1】 百分率を求めることができる。  
(A設問8) 数量関係 (正答率 28.6%)  
 $200 \text{ (人)} \div 80 \text{ (人)} = 2.5 \text{ (\%)}$  と誤って解答している児童が、57.1%。
- 【課題2】 メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる。  
(B設問3 (1)) 数学的な考え方 (正答率 0%)  
メモの2つの内容について答えなければならないが、1つだけ解答している児童が、42.9%。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】・割合を表す小数と百分率の関係を数直線を参考にして考えさせ、百分率の意味を捉えさせる。  
・日常生活の中から百分率が用いられている事象を探すなどの活動を設定することにより、定着を図る。
- 【課題2】・第3学年「表とグラフ」や第4学年「折れ線グラフ」、第5学年「割合のグラフ」の学習において、グラフの読み取り方や複数のグラフを比較したりする方法を指導する。  
・筋道をたてて考えさせ、その考えや説明の仕方をノートに言葉や数、式を用いて記述させたり発表させたりする。算数用語や話型を活用できるように学習コーナーに掲示しておく。毎日の学習で、基礎問題→確認問題→深化問題に取り組み、既習事項を活用して発展問題に意欲的に取り組む態度を養っていく。

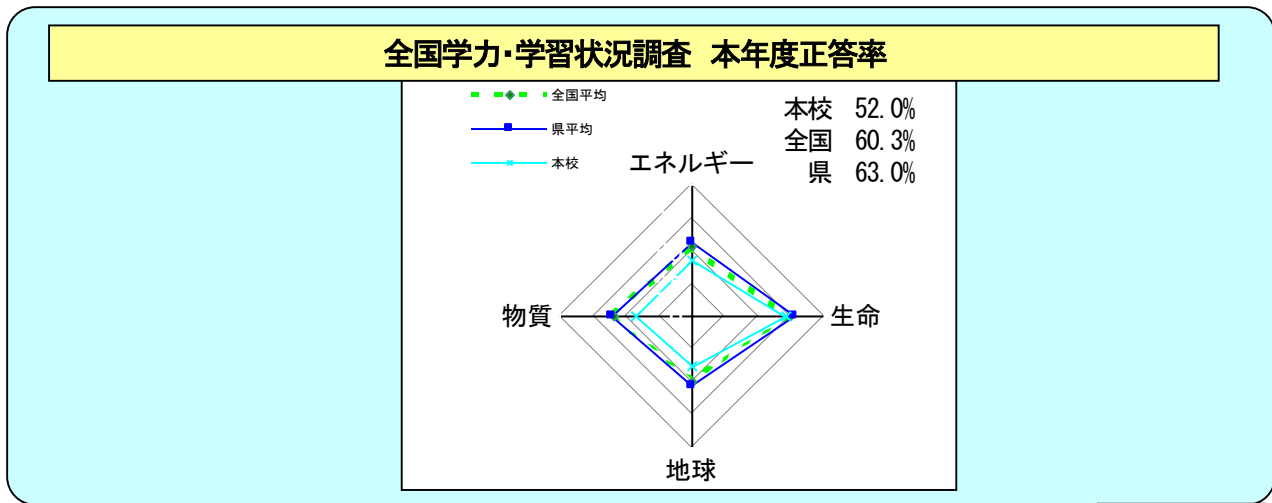
※小中一貫した取組については、数量の関係を捉えることが苦手な児童生徒が多いため、数直線や図などを用いて、数量の関係を捉える場面を設定し、根拠をあげて説明する活動を仕組み、丁寧に指導・確認する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					5年生 復習テスト (割合)	5年生 (百分率) H30「全国学力」	5年生 学年末テスト
目標値					70%	70%	80%
実施後数値					67.7%	60%	78%

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年生 復習テスト (グラフ)					5年生 (グラフ) H30「全国学力」	3, 4, 5年生 学年末テスト
目標値	70%					70%	80%
実施後数値	52.6%					75%	78.5%

来年度に向けて

途中の式など考えたことをしっかりとノートに足跡として残すように指導する。  
算数用語を活用し、根拠をもとに自分の考えを説明する場を設定する。



**重点課題**

【課題1】 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。  
 (設問3(2)) エネルギー (正答率 28.6%)  
 回路を流れる電流について、仮説が正しい場合の検流計の針の向きと目盛りを正しく選ぶことができていない。

【課題2】 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる。  
 (設問3(4)) エネルギー、地球 (正答率 28.6%)  
 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶことができていない。

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

【課題1】・検流計で何が測れるのか、なぜ必要かについて理解を促すよう、電流に関わる単元の構成を工夫するとともに、検流計の使い方に慣れさせる。  
 ・電気に関わる学習において、電流と電圧やそのはたらきの関係についての定着を図る。

【課題2】・太陽の1日の位置の変化について、授業の中で、他の単元においても、ことある毎に関わらせて学習を進める。  
 ・復習をする際に、類似の問題を取り上げて習熟を高める。その際に、問題を解くにはどのような基礎的な知識が必要かを話し合わせる等、指導の工夫をする。

※小中一貫した取組については、授業において実験を行う場合、実験計画から立てさせ、必要な器具や装置を合理的に扱い実験結果を説明する活動を通して、児童の主体的な学びを育む。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					5年生 復習テスト	5年生(電流) H30「全国学力」	3～5年生 学年末テスト
目標値					70%	80%	80%
実施後数値					86.7%	40%	90.1%

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						5年生(光電池) H30「全国学力」	3～5年生 学年末テスト
目標値						80%	80%
実施後数値						60%	90.1%

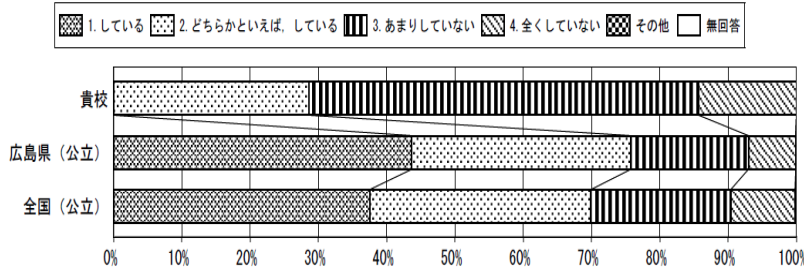
**来年度に向けて**

単元の始めに既習事項を振り返る場を設定する。  
 予想を立てさせ、意欲的に実験や観察を行わせる授業を仕組む。  
 また、まとめた結果を話し合う場を設定し表現力をつけるようにする。

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査)

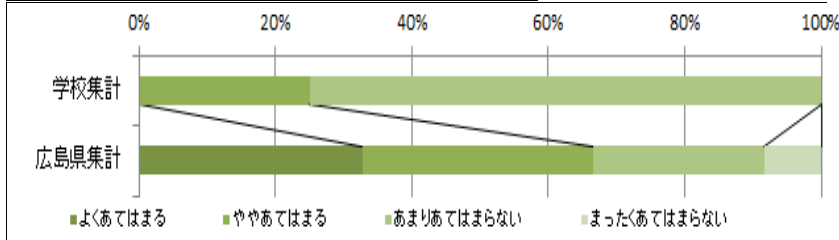
(1) 生活・学習

家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している

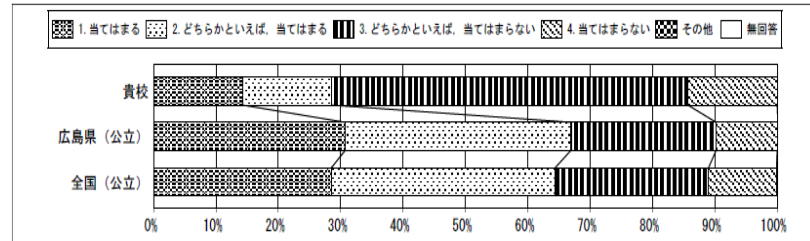


(2) 教科

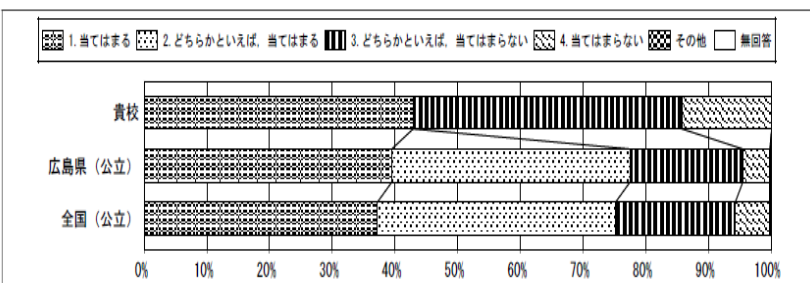
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしている。



算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	社会の出来事や事件などに関心があると肯定的に回答した児童が0%である。	朝の会や帰りの会、給食指導時間の話題や学級の掲示物などに時事ネタを取り上げる。	5	75%	児童アンケート調査	1月	50%	50%
全国	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していると回答した児童が28.6%と低い。	教科書を使った学習について、具体的に指示する機会を増やす。	6	70%	児童アンケート調査	1月	71.4%	42.8%
	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本 国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしていると回答した児童が25%と低い。	毎時間の学習の終わりに必ず振り返りの時間を設定して、その授業で学習したことの定着をはかる。	5	50%	児童アンケート調査	1月	75%	50%
算数	基礎・基本 算数の勉強が好きと回答した児童が50%と低い。	算数的活動を取り入れる等算数科の楽しさを味わわせる。また、個のつまづきを分析して指導を行い、児童が分かったという達成感が得られるようにする。	5	75%	児童アンケート調査	1月	100%	50%
	全国 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童の肯定的な回答が、28.6%と低い。	単元や毎時間の導入や終末に、学習したことを活用する生活場면을提示し、生活との関わりを意識させるようにする。	6	70%	児童アンケート調査	1月	57.1%	28.5%
理科	基礎・基本 理科の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしていると回答した児童が25%と低い。	単元の導入やまとめは、普段の生活や身の回りの場面と関連付けるようにする。	5	75%	児童アンケート調査	1月	100%	75%
	全国 理科の授業で自分の予想を基に観察や実験の計画を立てていると回答した児童が42.9%と低い。	授業の中で観察や実験を行う際には、その計画を丁寧に立てるように授業改善する。	6	70%	児童アンケート調査	1月	85.7%	42.8%